佐野市立西中学校「学校運営協議会」だより No.２

学校と地域が力を合わせて子どもを笑顔に

R８.11.10
学校運営協議会
委員長

【第２回学校運営協議会　開催】11 月４日（水）



学校運営協議会とは、保護者の代表や地域住民の代表を中心に統括地域コーディネーターを加えた組織で、これまで以上に地域の声や地域の教育力を学校運営に積極的に生かし、地域と一体となって児童・生徒を育成する「地域とともにある学校づくり」を推進していく組織です。

協議会では、学校の要望や課題に耳を傾け、学校と地域で一緒に知恵を出し合い、要望の具体化や課題解決に向けた活動を行っています。（学校運営協議会だより No.１より再掲）

今回は、日光例幣使街道物語の在り方や学校評価の実施方法について協議しました。

【協議概要】

（１）　日光例幣使街道物語について

①　今年度の実施について(教頭より説明)

・約 280 名完歩、20 名程度欠席、10 名程度は歩かずに手伝いなどをした。
・地域の良さを実感できている様子がみられた。（振り返り意見から）
・保護者の協力を得て、安全に実施することができた。

【委員１】スムーズに運営できた。歩く様子、ゴールの様子から生徒が楽しんでいることが伝わった。

【委員２】５キロ短くしたのはクマの出没などからか。

【教　頭】クマ対策もある。また発雷確率が上がる時間前に帰宅できるようにした。

【委員３】２３キロの頃を知っているが生徒、保護者の負担が大きかった。
１５キロにしたことで余裕ができ、地域を知るという目的を達成しやすいと考える。

②　今後について（教頭より説明）

・これまでの運営の仕方が難しくなってきている。しかし、今後も学校と地域がつながっていくことは重要である。地域や地域の人材を活用して別のやり方で地域を知る行事にできないか。
（例）校内写生会を地域で行う。趣味のサークルに生徒が参加する。

【委員２】公民館をチェックポイントにするなど、天明小の街歩きイベントも参考でできるのではないか。

【委員４】吾妻地区は学校に敬老会の方が来て教えている。

【委員１】働き方改革の観点から行事のやり方を変えることは必要である。生徒が楽しみにしている行事でもあり、体力のある中学生には歩く行事はちょうどよい。３年間で３つの地域を１つずつ回るなどもできるのではないか。

【校　長】昨今の情勢から教員の車には生徒を乗せることができなくなった。今年度の実施において体調不良者の対応を心配していたが、保護者の方が全員迎えに来てくれ、大きなトラブルはなかった。

（例）植野地区のふれあい祭りなど、各地区でサークル発表会などがある。そのような場を活用できないか。

【協議結果】かえで義務教育学校開校に向けて、それぞれの町内会や育成会とも情報を共有し、引き続き協議していく。

【アドバイザーより】学校運営協議会や統括地域コーディネーターによって地域の人たちとのつながりを作る必要がある。現場の先生の負担が増えているのでは意味がない。

（２）教育活動について

①授業参観

②生徒の様子について

【委員１】学年が上がるにつれて一体感などが出てくる。３年は学習クラスマッチなど学力向上への工夫が見られた。

【委員２】数学は教員が２名体制なのが手厚くてよい。かえで学級も同様だった。

【委員３】生徒の私物が昔と比べてかなり変わってきている。

【委員４】のびのびと学んでいる。間違えてしまうことへの緊張がないことは学習効果を高めると考える。

【委員５】実際の授業を見て、教育方針を実感できた。メリハリがあり、教師と生徒の関係性ができている。





（３）学校評価について（校長から説明あり）

①アンケートの実施方法について

・保護者アンケートを匿名でなくそうと考えるがどうか。

【校　長】理由の１つは、社会の急激な変化の影響も受けてか、保護者からの要望も多岐に渡るようになってきており、教育活動に反映できない事もある。丁寧な説明や回答をするために、必要によっては個別に回答したいという、ねらいがある。

【委員２】記名でよい。はじめに記名としているので回答を求める場合の記名も不要。

【委員１】記名がよい。アンケートにも一定の礼儀が必要。

【委員３】自分の子どもにかかわることを伝えたいのであれば記名してもらえばよい。

【委員４】記名をすることで、しっかり考えて責任をもって意見をもらうことができる。

【協議結果】学校運営協議会としては、今年度は匿名ではないアンケート方法にする。回答率等の結果を踏まえて、第３回委員会時に協議し、次年度以降に生かせるようにする。

４．報告

（１）学校における働き方改革推進プランについて

【校　長】（５月の第１回協議資料を再確認しながら報告）

・教員による自身の働き方の見つめ直し、校内業務改善委員会の取り組み等を行っている。

・成果として月別平均時間外勤務時間が毎月削減されている。しかし、文部科学省ガイドラインによる月４５時間以内という数字には至っていないので、改善を継続する。



【委員５】下校指導は交替制でも良いと思うが、部活動顧問の交替制というのは、指導における関係性の構築という面ではどうか。

【校　長】複数顧問という形をとっており、日頃からの部活指導で関係づくりに努めているので、現在のところは関係性ということでは心配はないと考える。

【委員１】時間外勤務時間の 45 時間以内というのは、教員個人の努力では難しいのではないか。市や外部からの協力も必要でないか。

【校　長】教員の業務改善の一つとして、市教育委員会主導のもと「部活動地域展開」が進んでおり、休日の部活動指導の負担が軽減されている。

【市教育委員会】令和 10 年度には、全ての休日（現在は月２回）において「地域展開」に移行するための準備を進めている。課題としては、指導者の確保や活動場所への移動等が挙げられ、解決案をクラブ関係者・保護者・地域の代表の方と考えている。